

6月



のんびりてくてく

お散歩してみませんか

6
月
号

2026年5月31日発行

発行者: (一財) 古河市地域振興公社

古河公方公園(古河総合公園)

〒306-0041茨城県古河市鴻巣399-1

☎0280-47-1129

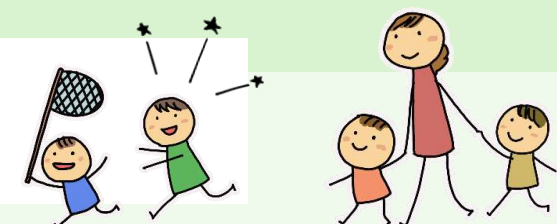
* てくてく情報は HP からダウンロードできます♪

水無月 | みなづき

水の月(「無」は「の」を意味する)で、
田に水を引く月の意とされています

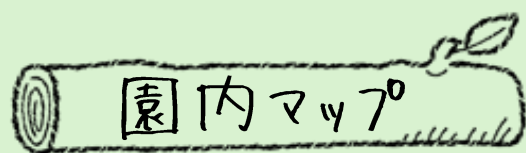
てくてく情報

1 水辺のビオトープで観察できる植物たち

昨年の春からはじめたビオトープ(①)♪だんだんと生態系が豊かになってきました!

公園の北西にある水辺のビオトープでは、子どもから大人まで約25人で活動が続けています。はじめは水と土だけの、本当に何もなかった場所でした。春になるとスギナばかりが伸びていましたが、土の中には埋没種子も残っていたようで、少しずついろいろな植物が顔を出すようになりました。そこに園内の湿性植物を移植したり、種をまいたり、外来種を間引いたり、みんなで少しずつ手を入れてきました。そうした作業を重ねるうちに、ビオトープはだんだんとぎやかになってきました。春にはアリアケスミレがたくさん咲き、アリが種を運んだのかなと思うような場面も見られます。虫も植物も種類が増え、季節ごとの変化が感じられる場所になっています。

ここでは、その中でも観察しやすい植物をいくつか紹介します。ビオトープのまわりをゆっくり歩きながら、草花の様子を見てみてください。水辺には、みんなで設置したU字溝を使った観察スポットもあります。小さなお子さんは、大人と一緒にのぞいてみてくださいね。

A
カヤツリグサ科
フトイB
カヤツリグサ科
カンガレイC
ミソハギ科
ミソハギD
シソ科
ミゾコウジュ

2 今月の鳥 —カッコウ—

さわやかな初夏を告げるさえずりが公園に響いています♪

カッコウは5月頃に日本へ渡ってくる夏鳥で、繁殖期のオスが縄張りを示すために「カッコウ、カッコウ」と盛んにさえずります。自分では巣を作らず、ほかの鳥の巣に卵を託す“托卵”という独特の生存戦略でも知られており、ホオジロやオオヨシキリ、モズ、ウグイスなど決まった相手の巣を選んで卵を産みます。メスのカッコウは自分が育てられた時と同じ種類の鳥に托卵する傾向があり、これは遺伝的に受け継がれていると考えられています。また、卵の模様を托卵先の鳥に似せて気づかれにくくしたり、親鳥が留守にした一瞬を狙って産卵を済ませたりと、その行動は驚くほど巧みです。こうした営みが公園ではひっそりと繰り返されています。

Instagramアカウント

Xアカウント



②カッコウ

